

東松島市一心

ICT地域の絆保存プロジェクト「東日本大震災を語り継ぐ」事業

東日本大震災東松島市被災状況写真集

震災関連記録集

発行・編集 宮城県東松島市教育委員会
生涯学習課 東松島市図書館

東日本大震災東松島市被災状況写真集について

東松島市内で撮影された写真を中心に収集し、以下のようなメタデータを付与しました。
地区・目標物・日付・テーマごとに整理し、1冊ずつの電子写真集として公開しています。

メタデータ付与内容

(1) 地区コード・目標物 (2) 記録区分コード (3) 寄贈者No (4) 写真No (5) 寄贈者・日付・内容

【例】

矢本地区・蔵しっくパーク_震災時_東松島太郎_写真No_東松島太郎_2011.3.11_北側玄関

0420_2_001_000001_東松島太郎_2011.3.11_北側玄関

(1)地区コード : 31地区

(2)記録区分コード : ①震災前 ②震災～1か月 ③1か月～2か月 ④2か月以上
⑤2012.5.1～ ⑥2013.4.1～ ⑦2014.4.1～

※写真の中でご本人・ご家族が掲載され希望されない場合はお手数でも下記までご連絡を頂ければ幸いです。
また、こちらをご覧になれる方は震災当時を思い出し体調を害される場合がありますのでご注意ください。

問合せ先:宮城県 東松島市図書館 Tel 0225-82-1120(火～金曜日 10:00～18:00)

東松島市一心

ICT地域の絆保存プロジェクト「東日本大震災を語り継ぐ」事業

東日本大震災東松島市被災状況写真集

震災関連記録集

石巻日日新聞 壁新聞

2011.3.11～2011.4.10

記録区分コード2

発行・編集 宮城県東松島市教育委員会
生涯学習課 東松島市図書館

石巻日日新聞

号外

東北地方太平洋沖地震

M8.8 最大震度7
石巻地方 6強
南浜町・門脇町・向井町・東・流

11日午後2時46分ごろ、三陸沖を震源とする地震が発生。地震の規模はマグニチュード8.8。最大震度「7」。明治時代に地震観測して以来最も巨大な地震。石巻地方では「6強」を記録。まもなく津波が押し寄せ沿岸部をはじめ各地は水没。津波に巻き込まれ行方不明となっている人々も多く、今後犠牲者は増える見込み。道路には流れてきた車が数台散乱状態で散乱している光景がみられる。

正確な情報で行動を！

(12日現在の被害状況)

石巻市災害本部によると

11日午後4時石巻市役所7階が崩落。鮎川浜全域が壊滅状態。

同 向井小が全焼。

同 北村小は街境の中心小あり。

同 小20 航空自衛隊松島基地は

同 滑走路が浸水、動きず。

同 天王橋が落下。

12日午前10:35 内海橋陥落。

(火災情報)

11、12日にかけて日赤松島周辺や中央、鮎川地区などで火災相次ぐ。

※石巻市役所では庁舎外での炊き出しの協力を市民の皆様と呼びかけています。

壁新聞3月13日

各地より救難隊到着

平成23年
3月13日(日)

石巻日日新聞

号外

被害状況が徐々に明らか

東北関東大震災

石巻沿岸地区

南浜町、門脇町壊滅。渡波沿岸地区と同様か。
女川町、牡鹿地区、雄勝壊滅。状況の模様。
東松島地区

赤井地区まで波が到達、床上浸水多数。
13日朝の時点で水が腰の高さまで達している。
住民の話によると大曲地区も壊滅。

正確な情報で行動を！

電気からライフ

ライン復旧へ

自衛隊、消防関係をはじめとする救助隊が国内外から到着。現在被災地で懸命な救助活動を行なっている。一方、避難所では給水が行われていない。また、食料も不足している。また、市当局は、毛布などが不足しているため、安全に確保できる市民に協力を呼びかけている。また、市によると13日正午現在で電線復旧は蛇田地区から始まっている。

なお、石巻市立の幼稚園、小中学校は3月14日まで、市立高市立女高は15日まで臨時休校。15日に予定されている公立高校の合格発表は、22日(火)以降に延期する。

宮城県東松島市

壁新聞3月14日

全国から物資供給

平成23年
3月14日(月)

石巻日日新聞

号外

石巻市内の大型店から食料、水、毛布など提供を受けている他、全国の自治体から支援物資が今後届けられる。石巻市は、統合運動公園にそれらをまず集積。その後、各避難所へ配布する。また、全国水道協会や他県から給水車や飲料水が石巻に届けられている。

石巻市は13日県を通して国へ避難所用テント1千人収容を要請した。14日午前、東内閣副大臣が石巻入り。市長らと避難所や被害現場を視察。

震災

14日と余震と見られる強い揺れが各地で起きた。茨城県沖ではM5.5を観測。気象庁は、今後と震度4前後の強い余震や津波の可能性があるため、厳重な注意を呼びかけている。

東松島地区

東松島市では、避難所4ヶ所を開設。現在(14日朝)の総収容人数は、1万3千人。所在不明者が407件、人数21千人近い模様。

女川町

10mを超す巨大津波を受けて、高台にある町立病院、女川小、女川中、統合運動公園を残し、壊滅状態。

現在(14日)、自衛隊を主に救助活動が開始されている。

安否確認

各避難所では、避難者の名簿を作成している。安否を知らせるメモやメッセージを入口近くに張られている。

避難所生活が長期化する可能性があり、協力をお願いします。15日はまだ見込みあり。

宮城県東松島市

壁新聞3月15日

ボランティアセンター設置

平成23年
3月15日

石巻日日新聞

号外

石巻市災害対策本部によると15日現在で確認がとれた被災状況は、石巻市南浜地区門脇町3丁5丁目、鮎川地区の千手百世帯をはじめ甚大、避難所への避難人数は旧市内で106ヶ所、3万6千6百33人。
このうち、指定避難所など約30ヶ所に15日午後現在、避難者名簿を没置。また同日、石巻専修大学に「ボランティアセンター」を没置した。
同本部では避難所の運営にあたるボランティアの協力を呼び掛けている。「直接、石巻専修大で受け付けて下さい」とのこと。

石巻情報放送

石巻市(下町)では連日、午前8時から午後7時の避難所の避難者名簿を放送している。
録の受け付けは日と公園駐車場とラジオ石巻で行う。

介護ボランティア求む

石巻市では各避難所に介護の必要なお年寄りが大勢いることから「お世話出来る人がいたら協力してほしい」と呼び掛けている。
ボランティアが不足している避難所は次の通り。

- ・住吉小学校 石巻高校
- ・石巻中学校 住吉中学校
- ・中里小学校 門脇中学校
- ・鹿妻小学校 湊小学校
- ・残波小学校 好文館高校
- ・青葉中学校 大郷道小学校
- ・釜小学校 以上。

商店主らが炊き出し

石巻市立町の商店、飲食店の有志らが12日から炊き出しを行い、汁ものや食料を無料で提供している。

壁新聞3月16日

全国から救いの手、切、て

平成23年
3月16日(水)

石巻日日新聞

号外

全国から激励のメッセージ

石巻市災害対策本部のまとめによると、同市内で避難している人は3万9千54人、確認されているだけで死者は425人、行方不明者は1693人(雄勝河内は不明)にのぼった。地震と津波によって日和大橋が通行不可。

内海橋は徒歩で通行できる。石巻大橋、開港橋、牧山トンネルは車で通行可能となり、市内の幼稚園、保育所、小中学校は15日まで臨時休校だが、一部を除くは自費で延期。食料の販売はローカライズ(石巻市)の店、ヨリベニマル、蛇田店、ロクタク、天本などが一部で店頭販売を行っている。道路は南浜町がガレキで車の通行ができないうえ、真山、南中里、開港がまた冠水している。ただし、三角茶屋周辺や市役所周辺など冠水がひどく、地域も徐々に下がっており、通行可能な幹線道路が増えている。ただし、夜間はガレキや漂流物が道路に散積している。夜間は外出を控えるように」と対策本部は呼びかけている。

ライフラインは電気が公共施設、避難所を中心に徐々に復旧をはじめているが、水道はもう少し時間がかかりそうだ。

電気が復旧すれば一部コンビニなどでも営業再開される見込み。多くの市民が避難している避難所、インフルエンザなど感染症が流行している。そのための内側で口を覆ってしゃべったりミミをするなど、咳エチケットが大切。市内では徐々に復旧がはじまり、全国から石巻地方に支援の輪が広がっている。もう少しの間、避難者同士が支え合って、未曾有の災害を乗り越えてほしい。メッセージが全国から届いている。

女川町5千人、安否不明

壊滅的な被害を受けた女川町でも約6千人が町立病院、総合体育館で、女川一、二小中学校など約11ヶ所に避難している。また旭が丘の高山にある住宅地は大きな被害。自宅などで待機している。和歌山県や新潟県などからヘリコプター、レスキュー隊、自衛隊などが続々と到着。女川第一中学校に災害本部を設置。ガレキの撤去作業や配給活動を行っている。避難した住民の中には、町内で津波にあり、屋根の上にしがみつき、同町の中合まで流されたものの、近くを航行中の船舶に救助された人もいる。しかし、未だに5千人に安否が不明のまま。

宮城県東松島市

新聞3月17日
任に火り店がる

石卷曰曰新聞

号外

電氣復旧1万户超

東日本大震災から6日が過ぎた。甚大な被害を蒙つた石巻地方では、4万5千人以上が避難所で生活しており、安否確認はじめ、一刻も早い復旧と復興を願つてゐる。東北電力(株)石巻営業所では15日から復旧作業展開しており、当初は3648戸から、たか16日午後4時現在では、1万124戸まで復旧。全国から作業車と人員が石巻地方に集まり、少しずつが街にあまりかり灯りが燃めた。東北電力(株)によると、すでに復旧したのは、石巻市役所や市営体育石巻署病院など、石巻赤十字、石巻ロイヤル、文節藤満屋の3か所、小学校は山下、中学校は門脇、石巻青葉蛇田、高校は石巻好文館と、浄水場は横江蛇田、大街道を石巻水道取水口となっており、電線の経路によつて周辺地域でも通電されたところもある。

県東部保健福祉事務所では、17日現在、市内3か所で医療の提供を地とらる。軽症は蛇田中、難所土アテナ、石巻専修大空避難所エテナ、重症は石巻日本赤十字院。持病の薬が無くなつた人は、お薬手帳を調剤薬局に持参すれば、数日分は処方される。

希望が見えてきた！

避難所にも通電開始

東松島市の一部地域では電気の復旧も
始まった。災害対策本部が置かれている市役所^{市役所}
難所などの公共施設が中心となるが通電範囲は
徐々に広がると思われる。

市立冬本第一中学校に避難している女性囚は、
「あまりが灯った瞬間は、みなで拍手をして喜んだ。
これで希望室が見えてきた感じがする。」と後日とその
先にある復興に期待を寄せていた。

同市教委では卒業、終了式。今後の授業などは日程を協議しており、木村氏男教育長は「校内に避難者が居たとしても4月11日以降には授業だろうと再開したい」と話した。

陸上自衛隊の復旧活動はすでにやまており、赤井、鳴瀬地下などで人命救出や道路がレキの撤去作業を展開。16日からは給水車による活動も始まり、17日はロククタウの矢倉や丁沢矢野駅前、大曲小学校など計10ヶ所で実施した。

東松島市一心

ICT地域の絆保存プロジェクト「東日本大震災を語り継ぐ」事業

東日本大震災東松島市被災状況写真集

震災関連記録集

震災当日のメール

2011.3.11～2011.4.10

記録区分コード2

発行・編集 宮城県東松島市教育委員会
生涯学習課 東松島市図書館

1:35P
送信済メール 301/500
11/03/11 16:21
To [REDACTED]
RE4:電話きこえないね

津波にながされた
でもパパと無事
事務所の床にのってる
船みたい

さむいけど
大丈夫

宮城県東松島市

- END -

自画 受信メール 48/149 8:34

受信メール 48/149

2011/ 3/11 16:33

From 母

To

To

To

Sub 無事です

パパママはながされて今は川の土
手にあがった
大丈夫
心配しないで
じいさんはあさんは公民館にいっ
てるから大丈夫だとおもう

宮城県東松島市

東松島市一心

ICT地域の絆保存プロジェクト「東日本大震災を語り継ぐ」事業

東日本大震災東松島市被災状況写真集

震災関連記録集 体験記録

2011.5.11～2012.4.30

記録区分コード4

発行・編集 宮城県東松島市教育委員会

生涯学習課 東松島市図書館

「^{（音）}暗闇の中を歩いて避難する人たち」

和歌山県三好市に居た。（地元の人、平成4年頃に（音））

＜中下地区へ移動＞

東松島市金沢 下田橋付近

平成23年3月11日 午後 7:00 頃

宮城県東松島市



宮城県東松島市

3104_4_018_026047_東松島市(広報)_
2012.2.1_朝日海洋開発



自然の力は常に想定外
人は非力

破壊と創造の中に生かされる
生か死か...単純すぎる循環と
その節理

あ利にも人は非力

奪われて与えられたもの
「小さな命」

まさか!....

現実か? 夢か?

状況も認識する余裕と
時間がない。しかし現実には進行する
体が反応する

「考える」~「評価」~「判断」する余裕はない
体験と動物的反射のみで「動く」
体が反応する

全てが安全だから生を実感。
「生きたい」と願った。
そう思った。



もししたら危殆的状況の中で人は…
(国)の状況をスローモーションで見るのかもしれない。
実際に私が見た。今の現実を確信したい。世に生きたまま一
人は死ぬ。あるいは生きる。たぶん。そこに神様仏様が
見るのを。お判りも理不尽な最期に
投じたおれた安豆を命

「夫婦の4-4力で生還」

「上陸という大切な判断は私... 早く登れと妻に励まされたのも私????」

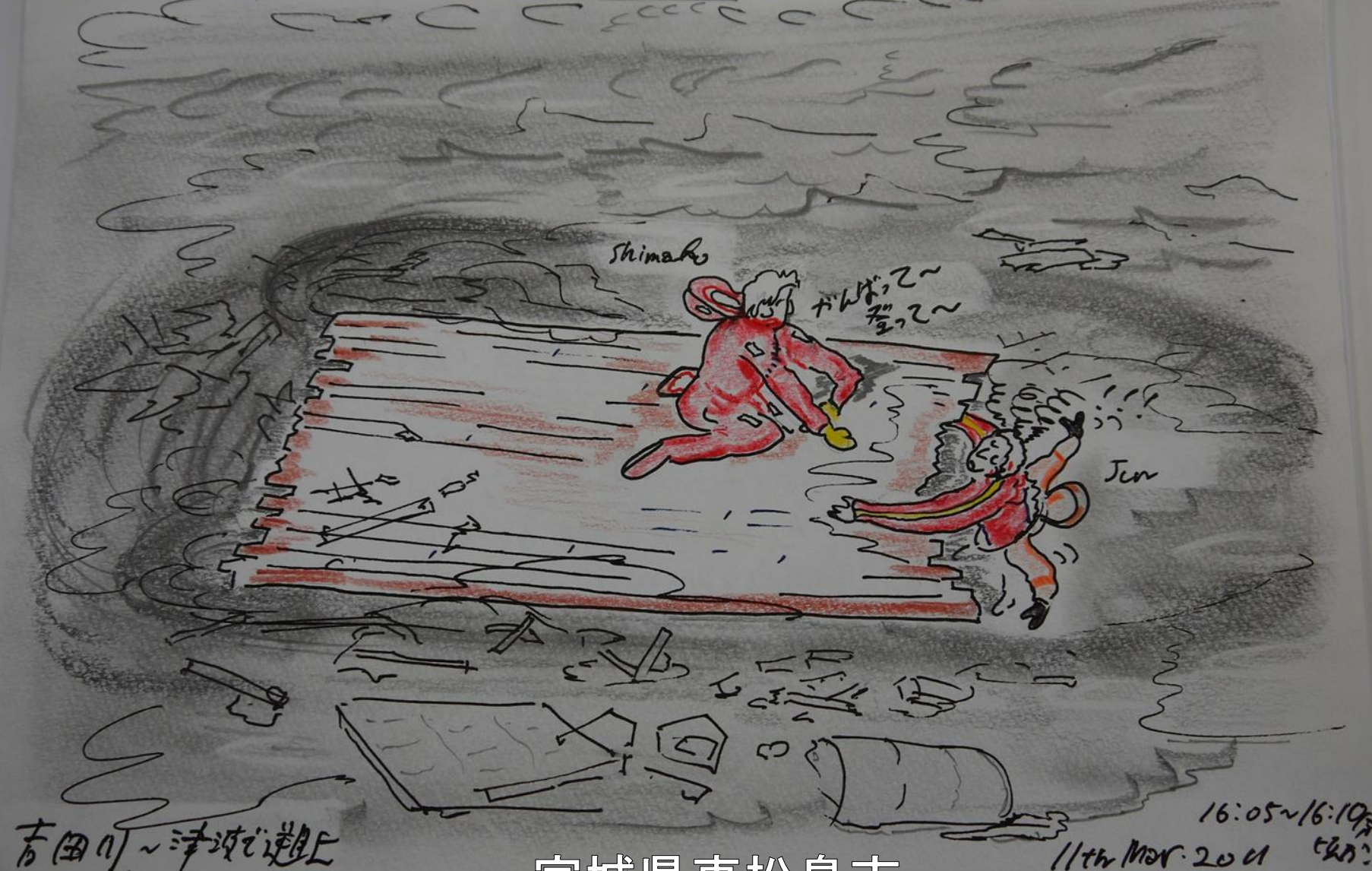
妻は後から上陸(いじりながら)したにもかかわらず、私より早く翌日に上陸の
私「早く上まで登れ」と叱咤され

私は少し低体温(軽症のみ)状態。判断遅く動きが緩慢...

単純な単語のみくり繰す。「白かったよ、これ、三津波か?」「これ、事務所か?」
「冷たく寒いので、志摩子ちゃん~12-3月脱いだ~ 早く着るとかふふ。」

三陸道梅

宮城県東松島市



吉田川~津波で逆上

宮城県東松島市

16:05~16:10
11th Mar. 2011

津波を見て「妻は自宅2階へ 私は「自衛隊2階」へ 別々に逃げるも

家屋漂流中に一瞬、流されながら 自宅2階ベランダの妻と自衛隊2階西側の窓にいた私の場所が接近!!! 声をかけ妻を自衛隊2階窓から室内へ引き寄せ、車務所2階にあったイマージュスーツを先に妻に着せた。「たぶん... 死んでも浮いてくまるだろう」そう思った。近くにあったライフジャケットも妻の体に差す付けた。必ず浮くさ。そう思った。私はフロアに立ってスーツを着て下半身のみ着装したところ.....「カッーカッー」衝撃音次の瞬間私は落ちていた(上半身はツナギ服)頭部と胸を強打して意識朦朧の中と目醒められた。

「夫婦で津波に流される」

生き残った原因？理由？なぜこうなったのかを知りたい。

「偶然と……幸運^{lucky}と……何だろう」

進行方向の先端にいた偶然(2人)

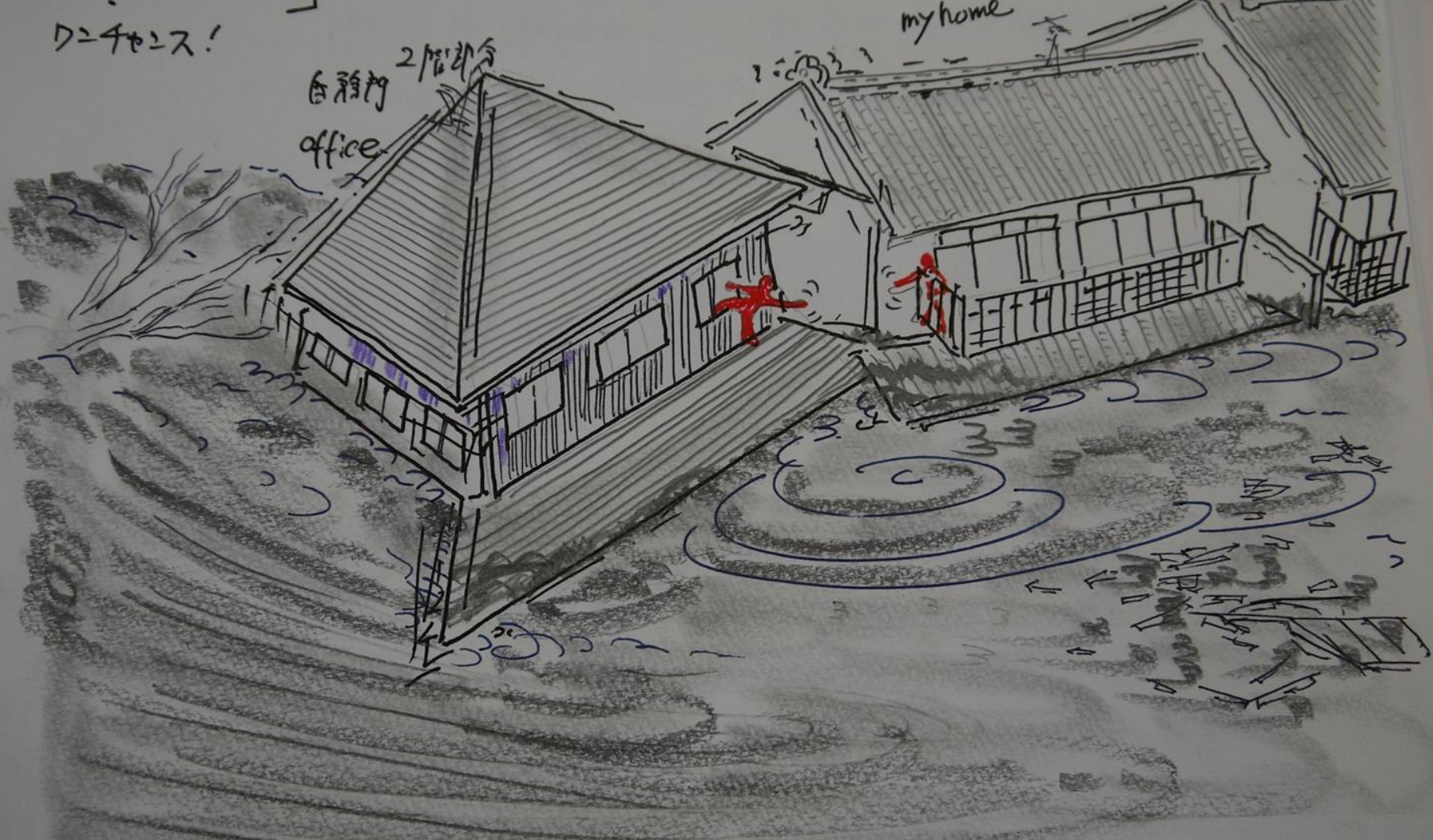
2人でマーシコンスーツを着ていた位置(幸運！)

浮いて流れる車体2箇所

着実に
いて
い～)
床に立って
まだ
金中の
かべ。

宮城県東松島市

3104_4_018_026055 東松島市(広報) 2012.2.1 朝日海洋開発 自宅の2階部分



宮城県東松島市

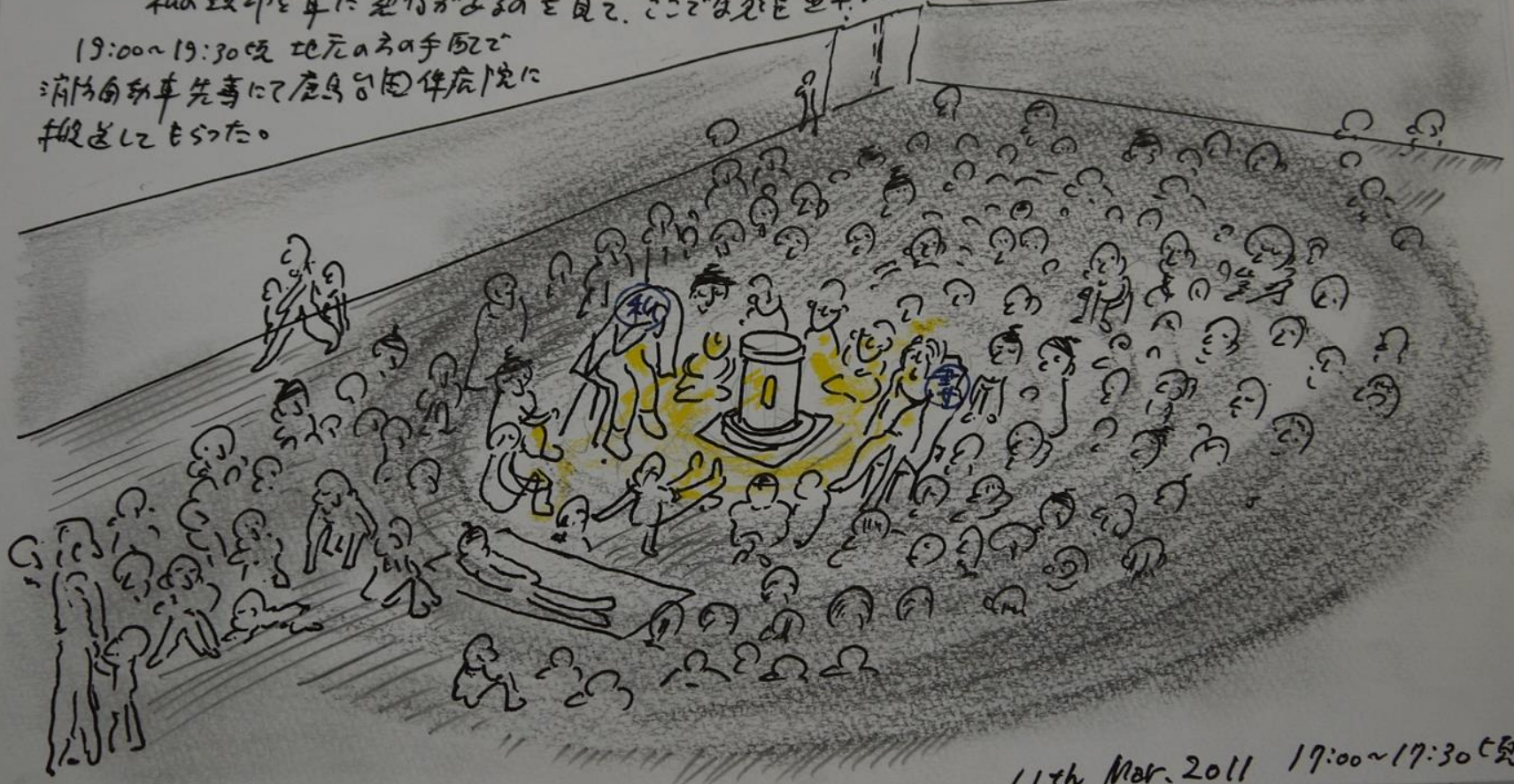
11th Mar. 2011. 15:50~16:00

消防団員に連れていらした「矢本町 大塩市民センター」

この式に大勢の参りとなり多くの人が参り-たにいた。

センター内に津波で流された野菜の人が来た。ストフの廻り空けて〜と責任者の人がパナソニックして下った。くセンター内の人々がゴウリしていた。着替えを頂き等々2人で取った服を着ることが出来た。木の頭部と耳に裂傷が有るを見て、ここで死ねと出来たね。と言われ 救急車を呼んだら、たが…来る。

19:00~19:30頃 地元の名手匠で消防団の車先等にて産島台団体病院に搬送してもらった。



11th Mar. 2011 19:00~19:30頃

宮城県東松島市

私が早く上まで登れ、と叫ぶと、
単純な単語のみくりする。「白かったよ、これって津波か?」「これって事務所か?」
私は自分も冷たく寒いので「志摩子ちゃん、12-13月脱いだ〜早く着るといいよ。」

三陸近海

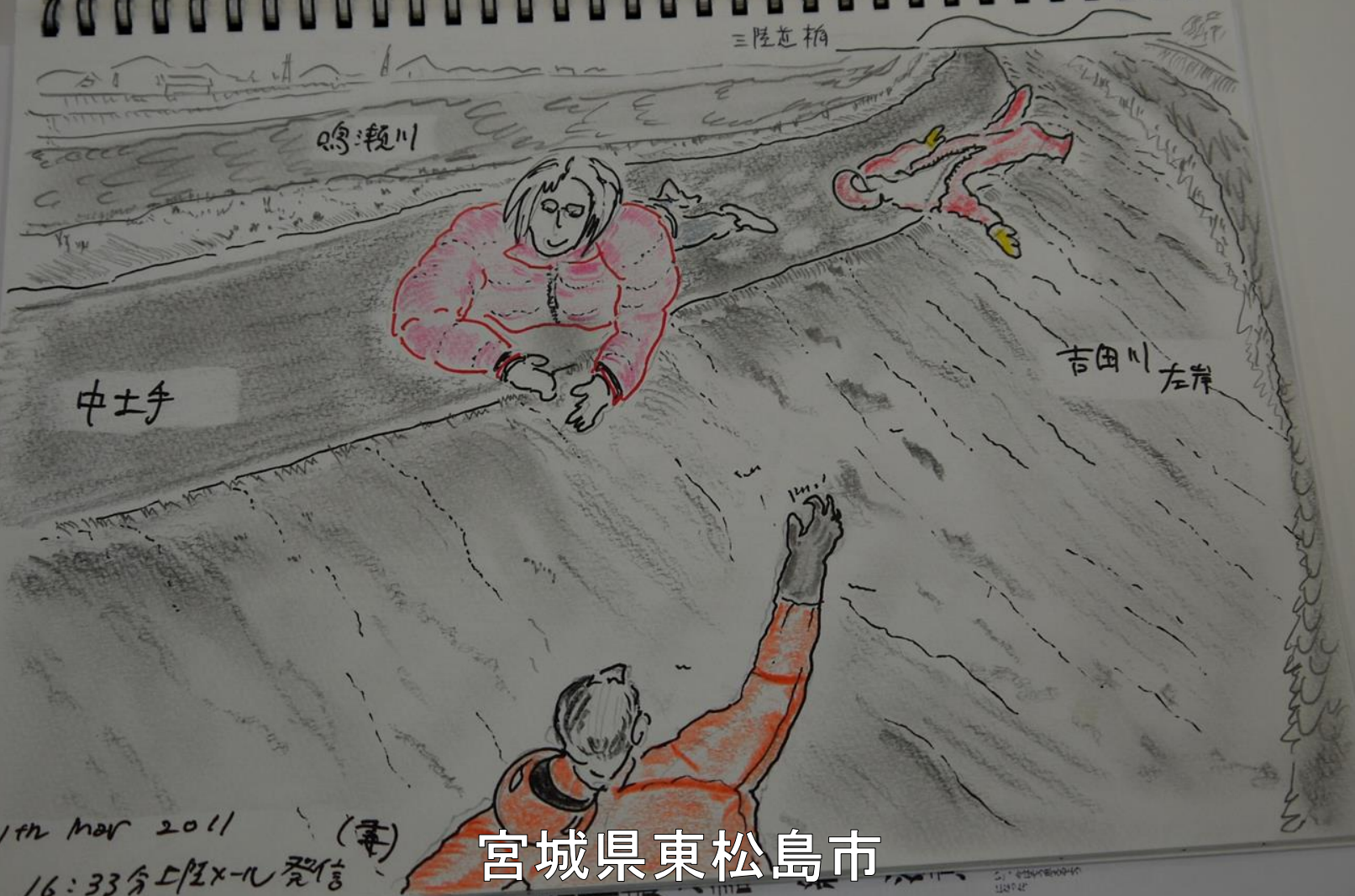
鳴瀬川

吉田川 左岸

中土手

11th Mar 2011 (水)
16:33分 上/下-X-11 2011

宮城県東松島市





「現実を今更理解出来ず」

3.11 15:50分頃 2011. Abe

車禍で2階東側窓割
外に飛了

宮城県東松島市

Critical phase

「祈り以外に... ない」
「自分には生かされているだけ... と笑う」

丁度いいところ
おれに
指定45号線の
下を通過
45



3 11 16:10
頃
吉田川を逆上する。

「ババババ!!」と音を出して
すぐに床にふせた。妻。(これ早〜)

下に書いてある金中の
 また すべて

2人でイマ-ジョンスーツを
着た位迄。(幸い)

③ 進行方向の先端にいた偶然 (2人)

三子二流此子
本行正2个部分

〔高さが... 今かれ目〕

立っていたあの人は
二次の腹内臓の中...
交感神経~
ただホーセン ↓↓

この場で「対御撃準」
私より〜スゴイ
全くケガもなし！人。

橋桁に2階浮遊部分が衝突したか？
橋脚に突屋のどの部分が当たったかは不明だが、
いずれにしても、この位置までは2階部分の
突屋の半に2名がいて「1人、1人」と言っ
て聞いて大石〜次の瞬間
アスファルトの上に2人だった。

そう、そして... 次の肩掛け
やて来る。国道45号49の
橋本行だ。

② 屋根が一部壊れており
20P-a-2pに2名乗った

丁巳
仙居子集
吉國川氏
(梅) 月 室

①衝突~大破

宮城県東松島市

十ガレ

協力機関の紹介

この震災の写真集を整理するにあたり、以下の団体の協力を頂くことで公開することができました。この場をお借りして感謝申し上げます。

公益社団法人 日本図書館協会

東日本大震災 震災対策委員会

学校法人 白百合学園

白百合女子大学

仙台白百合女子大学

東松島市図書館

おわりに

2011年3月11日東日本大震災は多くの尊い人命を奪い、また、住民の生活やコミュニティの絆、伝統・文化・産業など、地域に甚大な被害を及ぼしました。「復興への提言」(東日本大震災復興基本法に基づき、東日本大震災復興構想会議を設置)において、この大震災の記録を永遠に残し、広く学術関係者により科学的に分析し、その教訓を次世代に伝承し国内外に発信すると提言しています。

東松島市では4つの復興まちづくりの基本方針を定め復興を目指しております。

【1】防災・減災による災害に強いまちづくり ～防災自立都市の形成～

【2】支え合って安心して暮らせるまちづくり

【3】生業の再生と多様な仕事を創るまちづくり

【4】持続可能な地域経済・社会を創るまちづくり

【1】においては、防災・減災体制の強化に必要なこととして、津波体験の検証・共有化や、防災教育を徹底させることを挙げています。このことから、震災や津波の体験を風化させず、悲劇を繰り返さないためには、その「恐ろしさ」「威力」等について記録し、誰でも見ることができるよう、公開していく必要があります。そして、【3】においては、被災した産業、観光等の復興の促進を現在目指しています。このような中、被災地を観光で支援する人、修学旅行等で防災・減災学習として被災地を訪れる人が増えています。しかし、復旧が進み、土地は更地となり、震災前の人々の営み、震災の痕跡がなくなり、記憶の風化も否定できません。同時に、現状の被災地と震災当時の写真や映像等で定点的に実感したいとの希望もあります。

このことを踏まえ、東松島市では、図書館が平成24年度においては、公益財団法人図書館振興財団より助成を受けて以下の内容を構築し、平成25年5月より一部公開をはじめ、現在に至ります。

①震災の新聞記事スクラップ

②住民等が災害時に記録した写真

③被災住民の被災体験談や流された地域の文化や伝統を動画や音声による収録

④各種活動記録(避難所・仮設住宅等)やチラシ・回覧資料・学校便り等の収集

皆様からの物心両面に渡るあたたかいご支援を忘れないために、御恩を後世に残せるよう、発信ができることも念頭に内容の充実に努めています。引き続き皆様のあたたかいご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

東松島市図書館